

2023  
4



写真①制作の様子と完成作品

## 特別展「恐竜図鑑—失われた世界の想像／創造」展関連 こどものイベント

# 「きみも恐竜アーティスト！」

- 開催日時：2023年4月29日(土・祝)
- 参加者：こども17名、大人18名
- 対象：小学生～高校生と保護者
- 場所：アトリエ2、企画展示室

### ■1 学芸員によるレクチャー

企画者である元当館学芸員の岡本先生と展覧会担当の鈴木学芸員が展示されている恐竜の絵のどこに注目して見てもらいたいか解説しました。みんなが知っている恐竜は初めからその姿ではなく、化石が次々と発見されいろいろなことが分かってくるたびに姿が変わってきました。新発見がある度にその時代のアーティストが描いてきた「イグアノドン」という恐竜の絵を追いながら、変化していく姿や特徴をお話しました。

### ■概要

展覧会を鑑賞した後、さまざまな恐竜の骨のパーツを選び組み合わせて骨格をつくり、その骨に肉付けをしていくことで自分だけの恐竜を描きました。



写真②レクチャーの様子

### ◇こどもの感想（※原文をそのまま紹介）

- ・いろんな人がかいたきょうりゅうが見れたのでたのしかったです。（小学4年生）
- ・想像をはたかせて作るのがすごかったのしかったです。また、いきたいです。（小学5年生）

### ◇保護者の感想

- ・ただ恐竜の絵を描くだけでなく、骨から考えた所がとても良かったです。昔の恐竜アーティストの気分を味わえたと思います。
- ・子どもが恐竜が好きなので、参加しました。家では化石発掘のビデオをずっと見ていて、化石と恐竜がつながったみたいでした。

### ■2 鑑賞

展示室では保護者と一緒に鑑賞してもらいました。気になる作品のところ立ち止まり、それぞれ恐竜の姿や特徴をじっくり見ていました。また、恐竜の姿や特徴だけでなく、恐竜以外の生き物や周りの風景についても気づいたことなどを話していました。もともと鑑賞時間が短かったこと、最初の部屋で時間をかけて見ていたため時間が足りず、もっと見たかったと残念そうにしている参加者もいました。



写真③鑑賞している参加者の様子



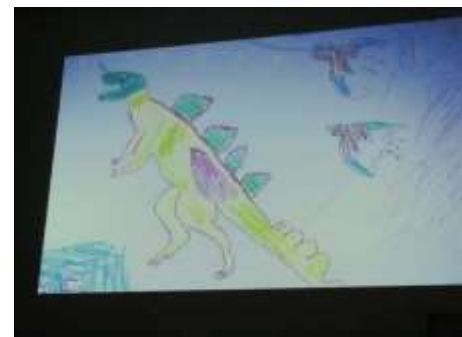
写真④色ぬりをしている参加者

### ■3 制作

まずは、骨のパーツを選んでいきます。どのパーツにするかが決まったら組み合わせ、その形を元に肉付けをしていきました。制作のレクチャーの時に「たくさん肉がついているところはどこか考えよう」と問いかけていたので、意識しながら描いている様子でした。姿が描けたら、色鉛筆やペンなどで模様や色をつけていきました。いろいろな色を使ったり、水玉やしま模様にしたり、色の組み合わせや模様にもそれぞれのこだわりや工夫が見えました。

### ■4 ふりかえり

完成した作品を画像で見せながら、それぞれ描いた恐竜の名前や特徴を発表しました。敵におそわれないように草原にまぎれて身を隠せる「グリーンクラトプス」という名の恐竜は、全身を緑色でいねいにぬっていました。見つけるとラッキーなおこる「にじいろサウルス」(写真④)、首が長くて空が飛べる「ロングネックフライングリザード」など、名前の特徴がそれぞれの色や形によく表されていました。今回アトリエ2に現れた恐竜たちは魚好きが多く、中にはしっぽを海面へたたきつけて魚をとることができる恐竜まで現れたことに岡本先生がとてもよく考えられていると感心していました。友達の発表を聞いて、次々と手があがりたくさんの方が発表してくれました。他の参加者の発表を最後まで興味深そうに聞いている様子が印象的でした。



写真⑤完成した作品

### □展覧会担当からのコメント

誰も見たことのない恐竜たちを、芸術家が、いかに想像し創造したか。その手がかりとなったのは、発掘された骨の数々でした。化石や骨格標本が出品されないことが今回の展覧会の特徴でしたが、こどものイベントでは、骨のパーツをたよりにイメージをふくらませて恐竜の姿を描きました。参加者の皆さんは、空想上の怪獣ではなく、大昔に暮らしていた生き物として、どのような生活をしていたかも含めて考え、発表では、それぞれが名付けた名前や特徴などを聞くことができました。（鈴木学芸員）